

調査の概要

瀬戸市の結果

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査の対象 小学校第6学年、中学校第3学年の児童生徒

3. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）

- ・ 学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題

(2) 生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

- ・ 児童生徒に対する調査
- ・ 学校に対する調査

4. 調査方式 悉皆調査

5. 調査日時 令和5年4月18日（火）

教科に関する調査 結果報告

小学校

瀬戸市内小学校の「成果（◎）」と「課題（▲）」

平均正答率（％）	全国	愛知県	瀬戸市
国語	67.2	65.0	◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけ、要約することができている。 ▲図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。
算数	62.5	61.0	◎ともなって変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができている。 ▲高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を元に面積の大きさを判断し、その理由言葉や数を用いて記述できることに課題がある。

瀬戸市内中学校の「成果 (◎)」と「課題 (▲)」

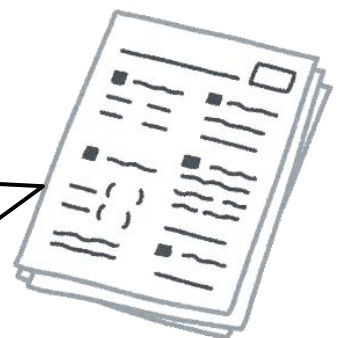
平均正答率 (%)	全国	愛知県	瀬戸市
国語	69.8	70.0	◎歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができる。 ◎古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができる。 ▲意見と根拠などの情報との関係について理解することに課題がある。
数学	51.0	54.0	◎数と整式の乗法の計算ができる。 ◎四分位範囲の意味を理解することができる。 ▲ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。
英語	45.6	50.0	◎情報を正確に聞き取ることができる。 ◎「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と区別して読み取ることができる。 ▲日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことが課題である。

課題として挙げた内容と各校での分析結果をふまえ、基礎的・基本的な力の確実な定着と、情報を整理し自分考えと関連付けて表現する力の育成を目指していきます。



調査結果から

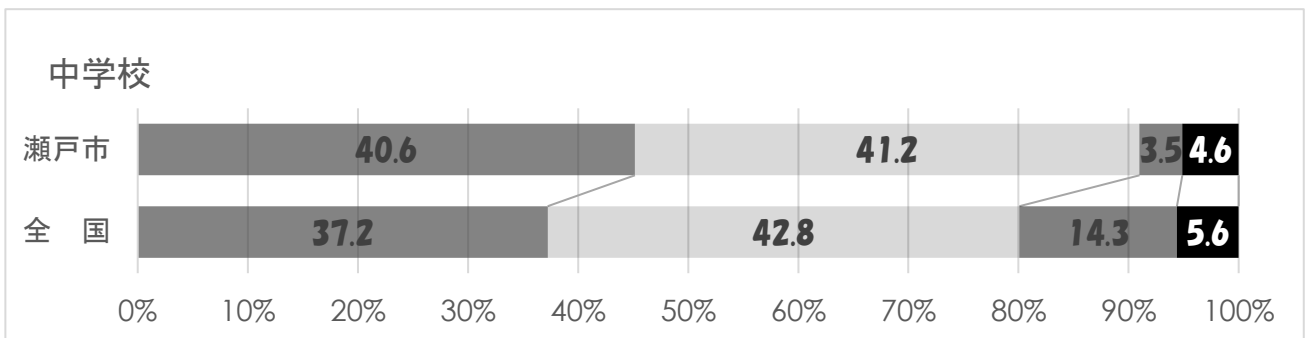
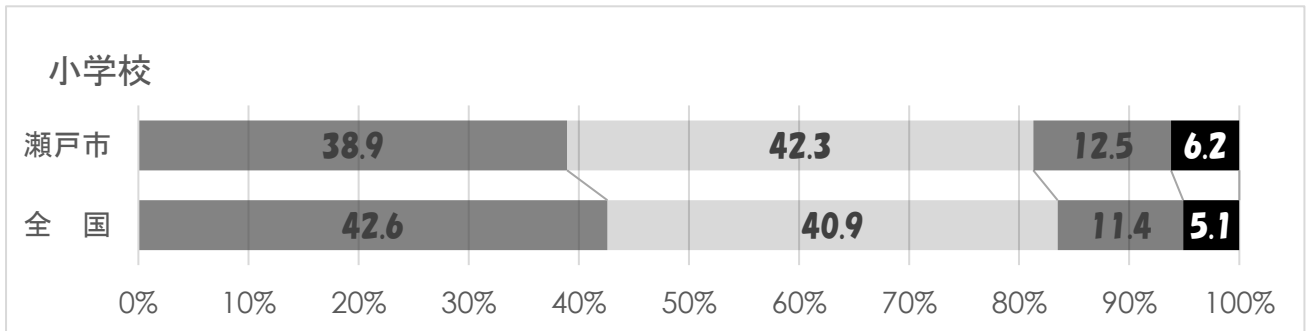
- 自己肯定感を高め、互いの良さや考えを認め合い、気持ちを伝え合うことができる子を育てていきましょう。
- 子どもたちが本にふれたり、本から学ぶ楽しさを知ったりする機会を増やしていきましょう。
- 住んでいる地域や社会のことを考えるようなきっかけをつくっていきましょう。



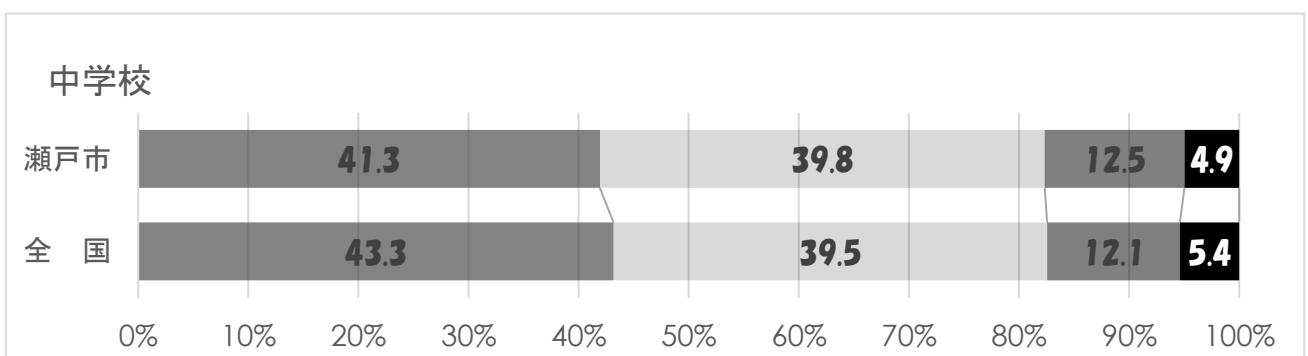
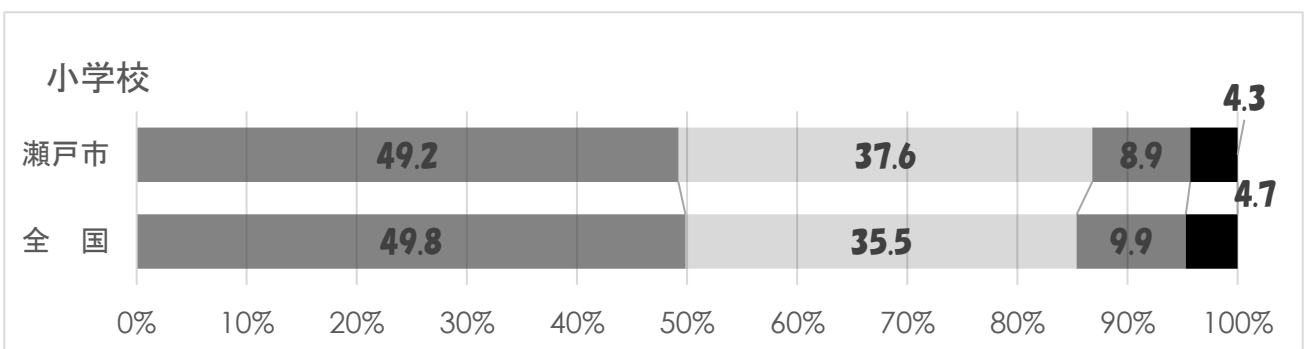
★グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

子供達の意識

◇自分には、よいところがあると思いますか

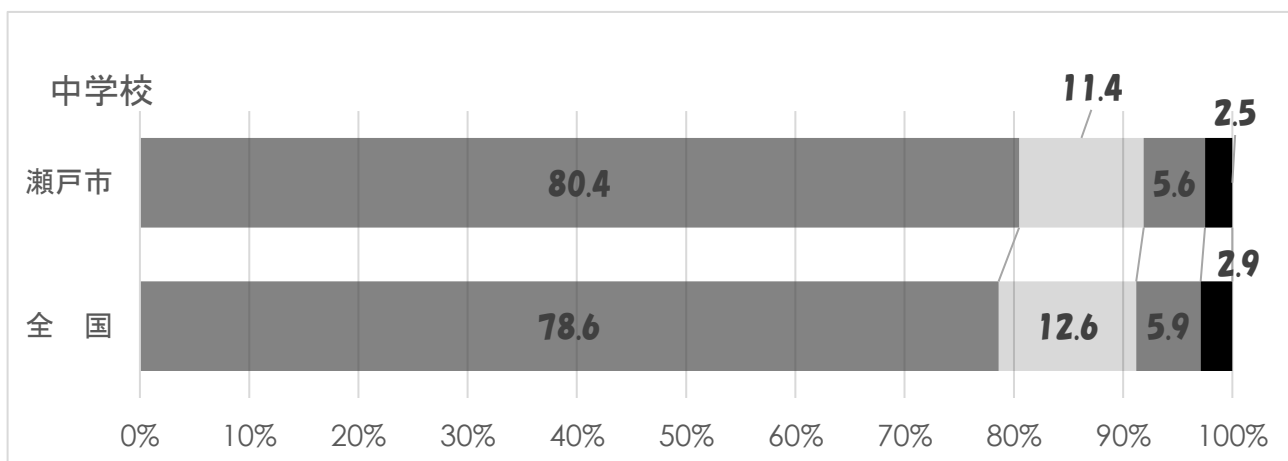
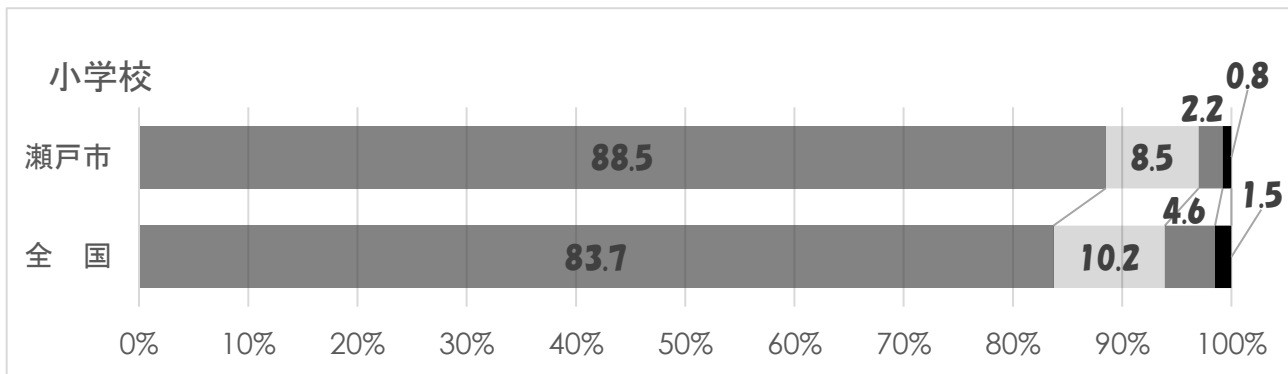


◇学校に行くのは、楽しいと思いますか

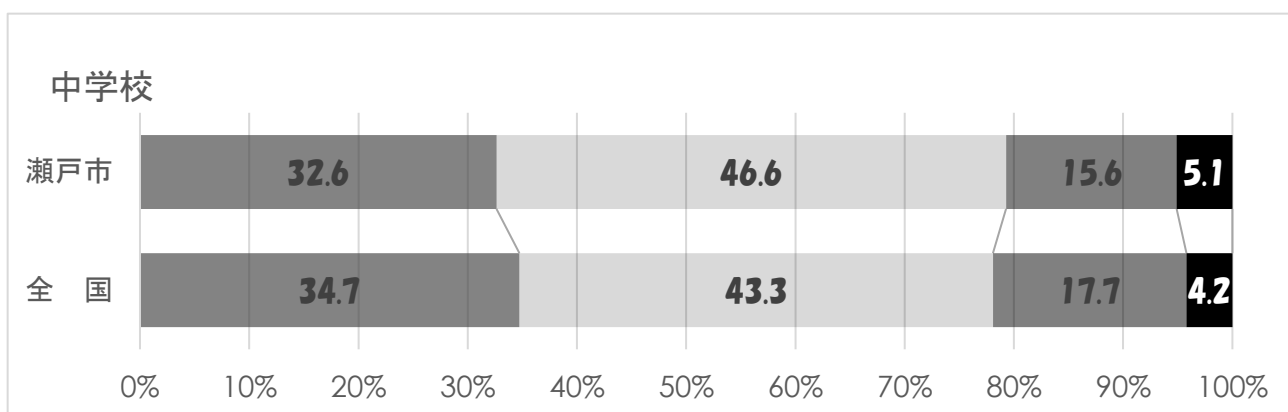
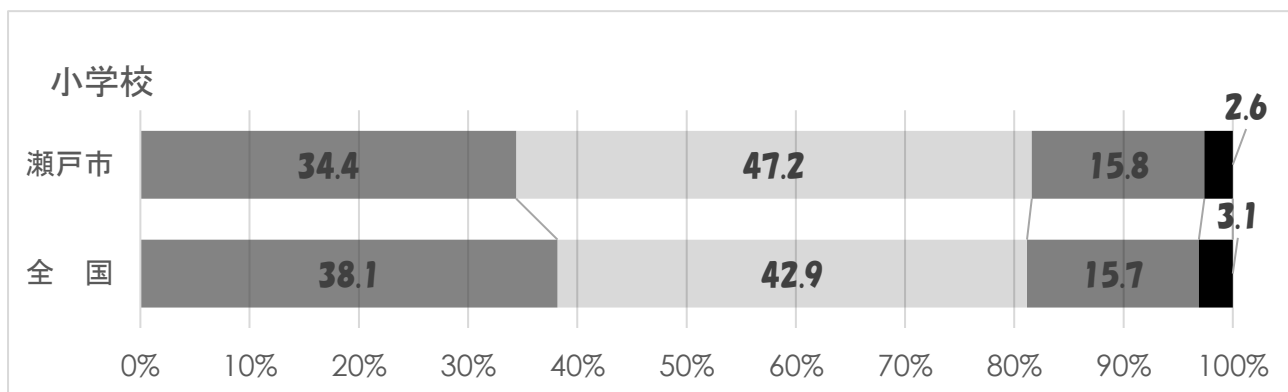


基本的生活習慣

◇朝食を毎日食べていますか

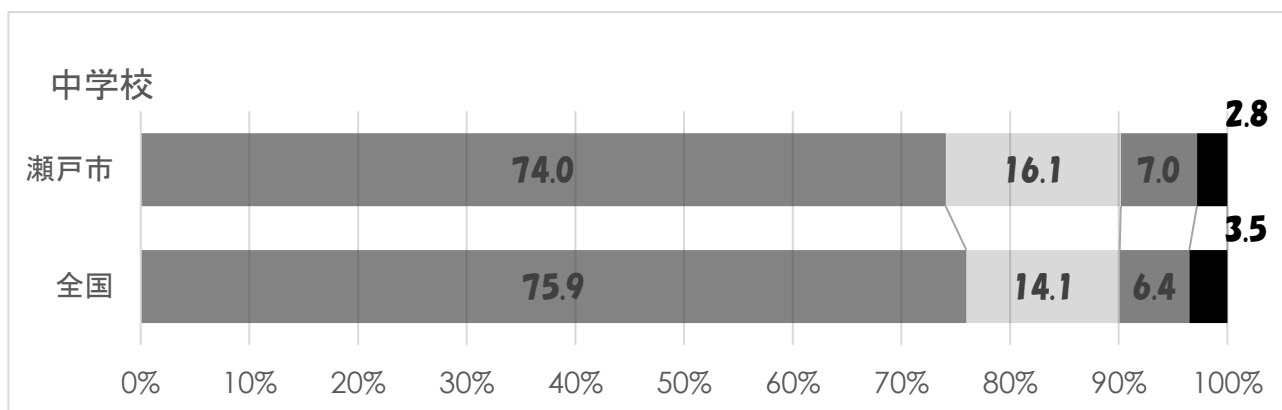
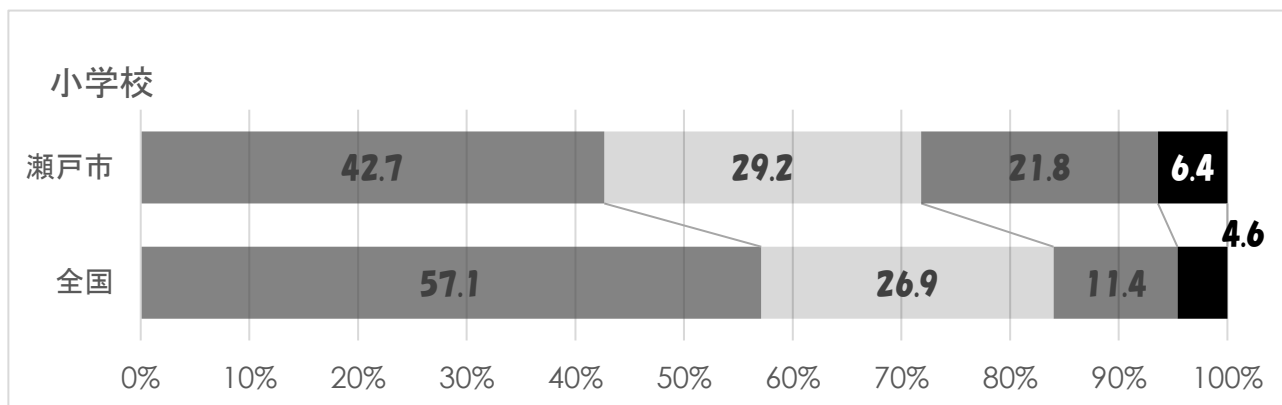


◇毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

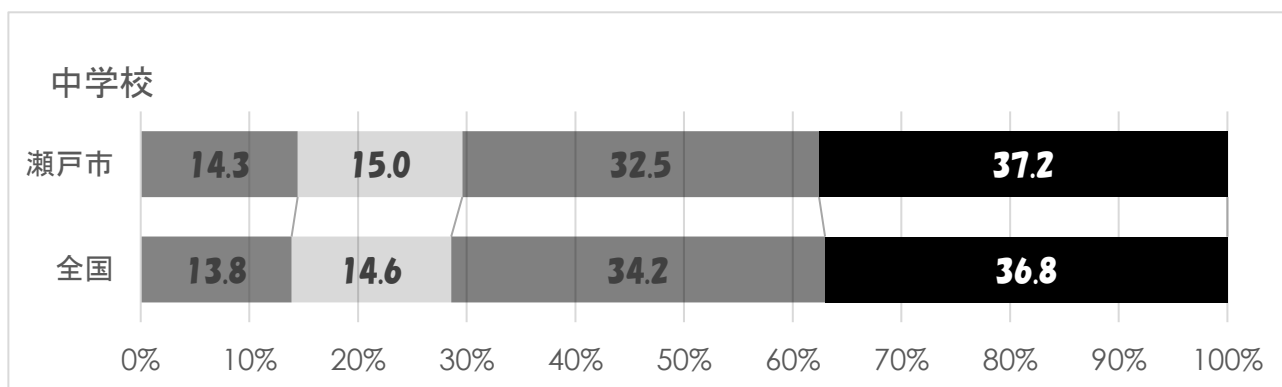
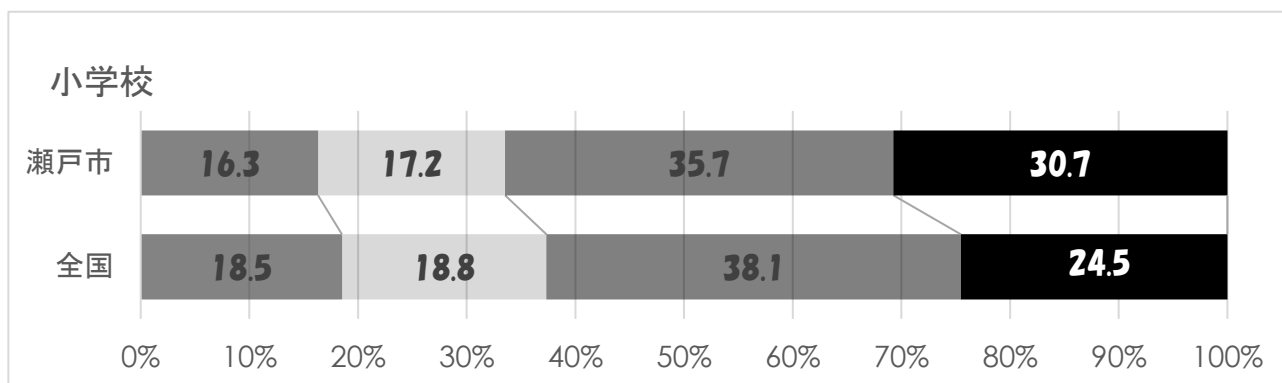


学習習慣

◇家で、学校の予習・復習をしていますか

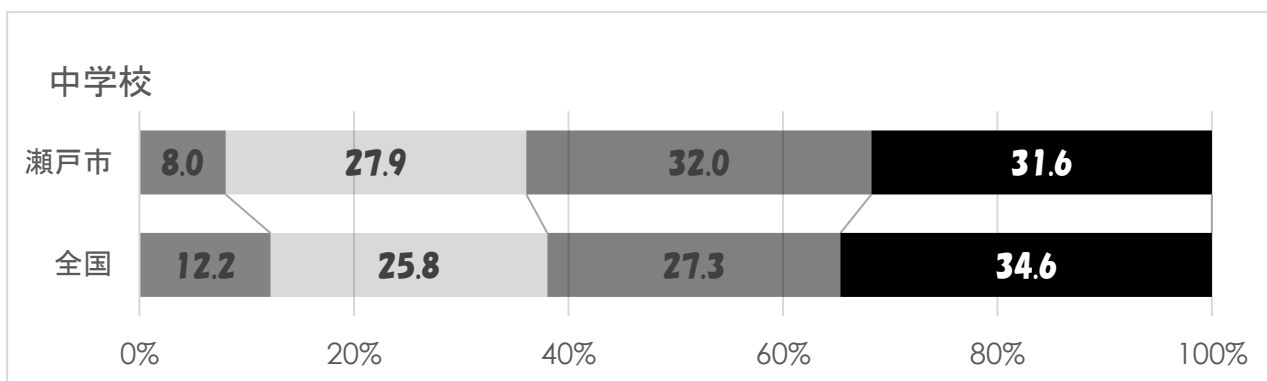
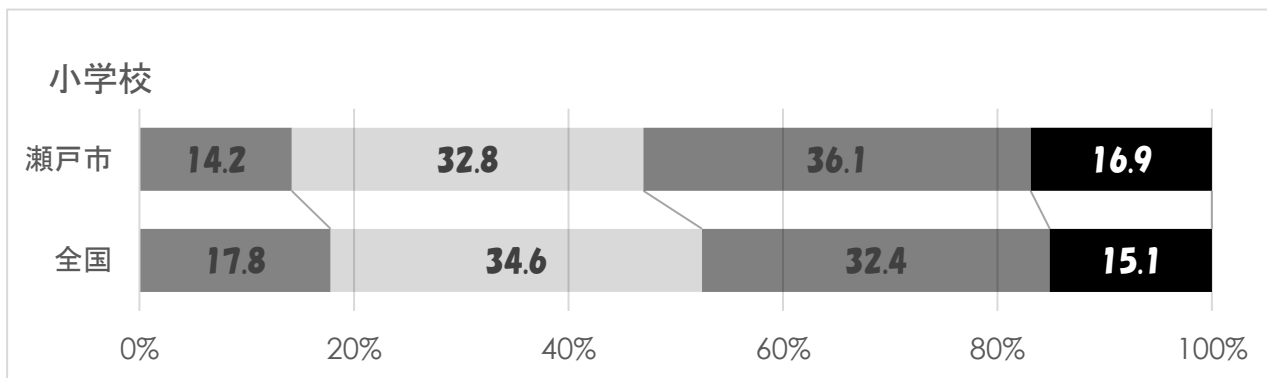


◇家で、読書はしていますか

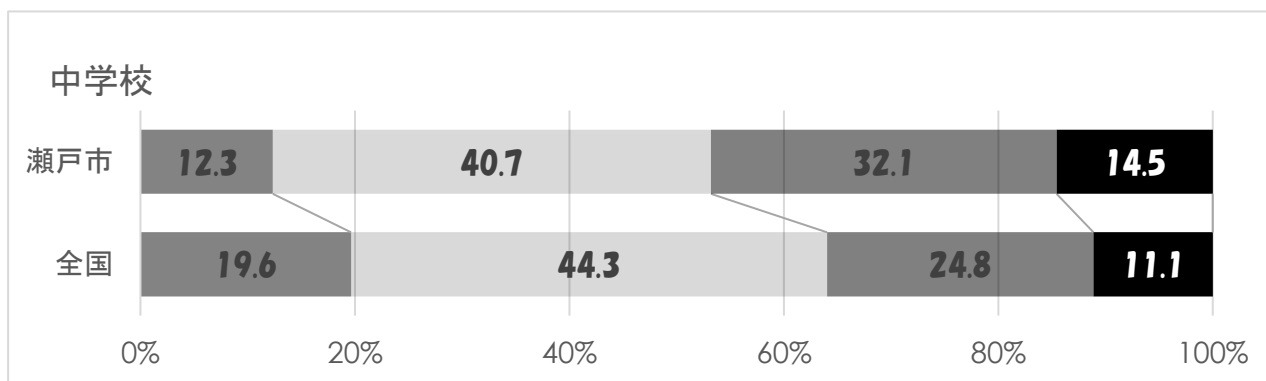
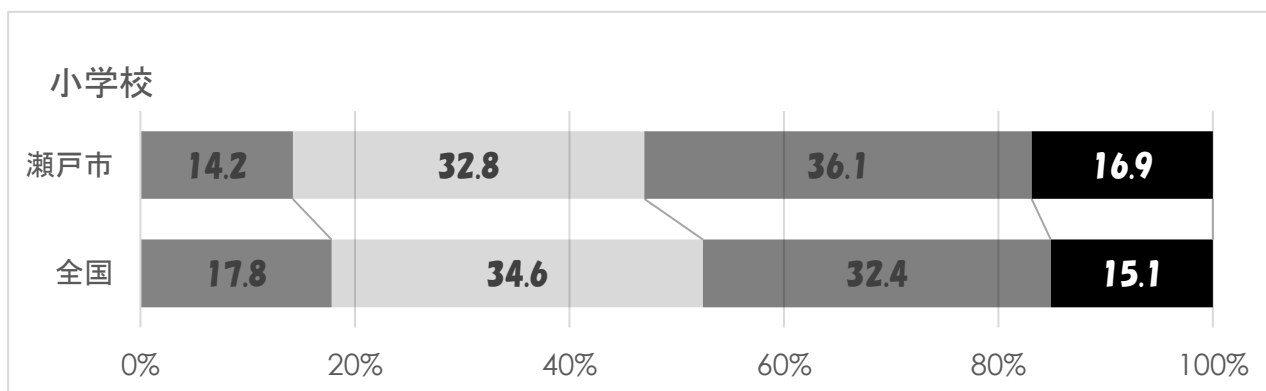


地域や社会との関わり

◇今住んでいる地域の行事に参加していますか



◇地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



【瀬戸市内小中学生の「よさ（◎）」と「課題（▲）」】

※令和4年度全国平均と比較し検証しています。

子どもたちの意識

◎普段の生活の中で幸せな気持ちになることはどれくらいあるかという問いに対して児童生徒の多くが肯定的に回答しており、小学生・中学生ともに全国を上回っています。

▲学校に行くのは楽しいと答えた児童生徒の割合は全国を下回っており、困りごとや悩みごとがあったときに、学校や家庭でいつでも相談できる環境を整えることが大切です。

基本的な生活習慣

◎朝食を毎日食べている児童生徒の割合が令和4年度と比べて高くなっており、日々の習慣として定着してきています。

▲毎日、同じくらいの時刻に寝たり起きたりしている児童生徒の割合は、令和4年度と比べて低くなっており、生活習慣の乱れが心配されています。

学習習慣

◎自分の考えを発表する機会に自分の考えが上手く伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している生徒が令和4年度より増加し、中学生になるにつれて高まっている。

▲家で、新聞を読んだり読書をしたりしていない児童生徒の割合は、令和4年度と比べて高くなっており、読書離れが懸念されています。

地域や社会との関わり

◎地域や社会をよくするために何をすべきかを考える児童生徒の割合は、令和4年度と比べて高くなってきています。

▲今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合が全国に比べて低く、地域や社会とのつながりが希薄になってきていることが心配されています。

子どもたちには、現在と未来に向けて、自らの人生を切り拓き生き抜いていく力が求められています。様々な学習環境で、自分の課題を見つけ、自分に合った方法を考え、挑戦できるような力を育てていくことが大切です。

瀬戸市では、仲間と関わり一人一人の異なる価値観や個性を認め合い合いながら課題を解決する力「協働型課題解決能力」の育成を進めます。また、地域や社会への関心を高め、子ども達が積極的に関わり合えるよう、「郷土愛」を醸成し、学校・家庭・地域による「連携強化」を進めます。

